

松前の歴史にまた1ページ

大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます「成人式」。
松前町でも326人の新成人たちが、大人への一步を踏み出し、
松前の歴史にまた1ページを加えた。
昨日まで子どもだったのに、成人式というたった1日を境に、
いきなり大人と呼ばれ始める。
果たして新成人はその1日をどう捉え、私たちはそこから何を感じるのか—。
TVを見ているだけでは分からない、新成人としての1ページ目を紹介する。

松前町誌



1、2_「久しぶり」「変わらないね」旧交を温める新成人
3_ たくさんのアイデアを出し、式を盛り上げた実行委員の皆さん



4_ 最近の若者の必需品「自撮り棒」が至る所で見られた
5_ 中学校卒業以来の集合写真。変わらぬ一体感で、一枚におさまる
6_ 「かんぱーい」。大人への仲間入りに祝杯をあげる
7_ あでやかな晴れ着姿とヘアメイクが、式典に花を添える



8_ 恩師との再会を喜ぶ
9_ 思い出のアルバム。昔の自分たちの姿に歓声が起こる
10_ 抽選会では、豪華賞品や外れ商品に一喜一憂した
11_ お礼の言葉。心温まる激励の言葉に感謝を述べ、成人としての自覚を新たにした



成人式実行委員長
佐藤拓さん
=筒井=

私はすでに働いていますが、成人式を迎えて、さらに社会の一員としての自覚が深まりました。気さくにあいさつしてくれる優しい松前町民。私もその一員になりたいです。そして、仕事を一つ一つ一生懸命やって、出世していきたいです。結婚して、今の自分の家族のような温かい家庭を作りたいです。

社会の荒波にのまれそうになることもありますが、松前町の成人として、しっかり乗り越えていきたいです。

始、新成人の勢いや熱気を感じるものでした。「思い出のアルバム」では、実行委員が小学校・中学校時代をまとめたスライドショーに、コメントを付けながら紹介。母校を懐かしみ、旧交を温める新成人の姿が見られました。「突撃インタビュー」では、お世話になった先生などにインタビュー。月日が経っても変わらぬ、先生の生徒への熱い思いに触れ、感謝の思いを新たにしました。式の結びでは、新成人を代表して実行委員長の佐藤拓さんが「成人としての自覚を新たにし、大人社会の一員としてベストを尽くす所存ですので、よろしくお願いたします」と述べると、会場は大きな拍手に包まれました。

成人になったことへの戸惑いと、式を盛り上げたいという思い、そして社会人としての自覚が同居していた今年の成人式。まさにリアルな若者の、大人への第一歩でした。彼らがこれからの松前の歴史を築き上げていきます。

theme
01

「松前の歴史にまた1ページ」

>>> 326人が大人への第一歩を踏み出した



「平成28年成人式」は、1月10日の午後、文化センターで開かれました。

ウインドウズ95の発売や野茂英雄選手のメジャーリーグ新人王獲得など、経済やスポーツ分野で新たな歴史が始まるうとしていた平成7年から8年。そこで生まれたのが、今年の新成人です。式にはそのうち242人が出席。華やかな振り袖や真新しいスーツに身を包み、新たな門出を迎えました。

今回のテーマである「松前の歴史にまた1ページ」は、成人式実行委員が自ら考えたものです。これには「まだ未熟者ですが、大人の仲間入りを果たした今、自分たちが歴史を作っていく」という強い決意が込められています。岡本靖町長は、自らの町長就任までの道を例に挙げ、「大変そうなのは、苦労はするかもしれませんが、新しい世界が開け、自分の可能性が広がります。どうか大変そうな道を選んでください」と激励しました。

式は今年も実行委員手作りのプログラムで進行。終

「松前の歴史にまた1ページ」

>>> 第二步。そして第三步と前へ進める

5 度目の成人 100 歳

私の時代、成人式はありませんでした。代わりに、20歳のときに徴兵検査というのがありました。体格を見て、甲乙丙に分類され、甲乙が兵隊として招集されるものです。私は体格がそれほどではなかったため、丙になりました。それが幸いして今があります。兵隊になった人は戦死してしまいましたから…。

新成人には、戦争のない当たり前の幸せに感謝してもらいたいです。



松野準一さん
=北黒田=

今年、93歳になる奥さんと暮らしていますが、何でも自分でやるようにしています。自転車で出掛けたり、庭木の手入れをしたり、本を読んだりして趣味も楽しんでいます。

これから100歳になる人には、自分の身体をいたわってほしいです。私は、終戦後に結核になりましたが、一病息災で、好き嫌いをせず何でも食べて、たばこもやめ、酒もほどほどにしました。身体に変化を感じたら、早めにお医者にかかるようにしていますので、年を取ってからの方がわりと病気はしていません。

4 度目の成人 80 歳

私の成人式は、元宗意原保育所の場所にあった旧役場で行われました。厳肅な雰囲気の中でありましたので、一人前に認められたと強く感じました。

新成人は学業継続中の人も多と思います。私は17歳のときに父を亡くして、高卒で働いていましたので、自分で稼ごうと無我夢中でした。社会には多種多様な仕事があるので、しっかりと自分の力を伸ばして、多方面で活躍してほしいです。



藤野光央さん
=浜=

今、書道を習ったり、グランドゴルフをしたりして、地域の皆さんとお付き合いを楽しんでいます。また地域の評議員や選挙管理委員会委員長などをさせていただき、充実した日々を過ごしています。

これから80歳になる人には、たくさんの人と関わり合って、仲良く人生を送ってほしいと思います。人は、やっぱり1人では生きていけませんから。また、健康診断なども積極的に受けて欲しいです。おもしろく、楽しく生きていくためには、健康第一です。

3 度目の成人 60 歳

私は成人式するとき、振り袖を自分で作りました。今は貸衣装なども多いと思うんですけど、せっかくの門出なので、親に頼らず作りました。当時、働いて間もなかったため、初めてローンを組んで作ったのが良い思い出です。

私自身、成人のときに夢や希望があったかは自信がありませんが、新成人には、無理をしないで、何でも挑戦していくという気持ちを持ち続けてほしいです。



兵頭千富さん
=南黒田=

今、社会福祉協議会で訪問介護の仕事をしています。訪問介護は、一対一で向き合えるのが醍醐味。その人の良さも知れるし、教えてもらうこともたくさんあります。今年で定年退職ですが、できる範囲で、この仕事に携わり続けたいです。

これから60歳になる人には、自分の気持ちに悔いのないようにしてほしいです。私も40歳の頃、福祉関係に興味をもち、訪問介護の仕事についたことで、大変だけれど、本当にやりがいのある毎日が過ごせています。

大人への第一歩を踏み出し、松前の歴史にまた新たな1ページを加えた新成人たち。その歩みをこの先、第二步、第三步と前へ進めることが、また新たな歴史へとつながるのではないのでしょうか。成人を迎えた2人の実行委員の決意を聞くとともに、20歳ごとの成人の先輩から、激励の言葉と各世代ごとの歩みの進め方についてのアドバイスをもらいました。皆さんも自らの20歳の頃に思いを重ね、現在の歩みの進め方を見つめ直してみませんか。

2 度目の成人 40 歳

私の成人式は、今のように新成人が主体となるものではなく、式典という印象が強かったです。たくさんの大人から激励の言葉をいただき、成人として責任感が増したのを覚えています。

新成人の皆さんには、今の友達を大事にしてほしいです。松前町は、小中が同じ校区なので、9年間を共に過ごします。だから、私もそうですが、同窓会で集まると、すぐに当時に戻れる。この友情の深さというのは、他の地域にはないと思います。



中内良子さん
=西古泉=

今、2人の男の子の子育てに奮闘しています。忙しい中でも、自分が笑顔でいたら、子どもも家族もみんな笑顔になります。子どもたちがのびのびと元気に育ってくれるように頑張りたいですし、仕事を頑張ってくれる夫もしっかり支えていきたいです。

これから40歳になる人は、仕事や子育てなど、まさに忙しくなってくる頃だと思います。全力でやるためには、健康であることが一番です。時間をうまく使って、バランスをとりながら頑張してほしいです。

新成人 20 歳

成人式を迎えて、全部自分で決めて行動しなくてはいけないという変化を感じました。私は大学生で、経済や経営を専攻し、教科を選択しています。しかし、社会に出たらもっとたくさんの選択があると思うので、しっかりと決めていきたいです。

今、就職に向けてたくさんの資格を取れるように勉強を頑張っています。希望の職種はまだ決まっていますが、会計事務などの資格を取って就職につなげたいです。



成人式副実行委員長
乗松彩乃さん
=昌農内=

将来は、いつも笑ってられる家庭を作りたいです。笑顔があつたら、たくさんの人が温かい気持ちになる。自分の家族だけでなく、周りのたくさんの人も笑顔が広がっていくような家庭を作りたいと思います。

これから20歳になる人には、自分が行きたい学校や専攻のコースがあつたら、その1本に絞って、絶対にそこに行つてほしいです。迷わずに、やりたいと思った自分自身の気持ちを一番に優先して、それに向けて努力し、実現して欲しいです。

成人式を迎えて、これまでを振り返ると、年齢を重ねるごとに周りのサポートが減って、自分でやっていくことが増えてきたと感じます。サポートが減ったからこそ、これまで両親や先生などいろいろな人たちに支えられてきたことがよく分かり、感謝の気持ちが深くなりました。

今、医療系の専門学校に通っていて、これから県外研修や国家試験が控えています。理学療法士になるという夢をかなえるために頑張りたいです。



成人式副実行委員長
西岡琴音さん
=神崎=

理学療法士は、人と関わる仕事です。リハビリでしっかり治療するだけでなく、きちんとコミュニケーションをとって、身体も心もいたわれる、患者さんに安心してもらえる人になりたいと思います。

これから20歳になる人には、将来の事を決めるときは、周りのアドバイスも大事ですが、最終的に決めるのは自分自身であるということをお伝えしたいです。人がこうするから、自分もこうするというのではなく、自分の考えをしっかりとって、自分の道を進んでほしいです。